



10月8日付け「河北新報」の見出し↓…インコびっくり(・◇・:)

【裁判員裁判「反対」たすき掛け 選任に候補者参加 秋田地裁】

「自分が裁判員になりたくない」じゃない
 「裁判員制度反対」だ。
 「ひとりの拒否からみんなの拒否に」！
 一人で立ち上がった。でも、それは一人ではない。
 「大運動」がいる！ここに「大運動」が！
 そして、全国に思いをおなじくする人たちがいる。
 でね。ここにインコもいるよ！！



秋田地裁はこの裁判に80人を抽出したけど、呼び出し状を送付したのは50人、さらに候補者数を30人に絞ったのに、当日の出頭者は26人、その上当日5人も辞退を申し出て、結局、3人を認めざるを得なかった。このタスキ姿の男性は、他の候補者とは別の部屋で待たされ、裁判長との面接で裁判員制度反対の意思を確認され選任されなかったとのこと。



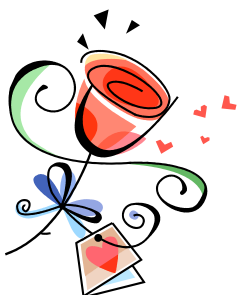
大運動がなかったら、反対する人たちは「お上のめたことに逆らう非国民」と言われていたかも…いや、それ以前にマスコミの「翼賛報道」の中で、声もあげられなかったらうなあ…
 インコの世界でも「翼賛」って言葉あるけど、意味が少し違うよ
 インコ辞典＝頭ではついていってはいけないとわかっていても恐怖から翼がついていくこと。鷲などの猛禽類についていけば食べられるとわかっていても、猛禽類について飛ぶ鳥のこと。自滅型飛行鳥ともいう

愛しの君が身にまとう香水に惑わされ…？！

横浜地裁で9月29日から始まった裁判で、「嫉妬」を「やきもち」に、「量刑」は「どれくらいの刑が適当か」と言い換えられたという。
 「量刑なんて馴染みがない」と考えるのはそうかもしれない。でも、そういう人に判断させることが問題なんだろうが！



「嫉妬なんて難しい言葉は分かるまい」！ それってバカにしていない？いや、完全にバカにしている！
 それとも「嫉妬」の意味も分からない人が裁くっていうこと？



横浜地検の検事さんを見習って言い換えてみたら…
 永田町はやきもちの世界（おじさんたちが餅を焼く日本昔話？）
 Aの出世に激しくやきもちし、憎悪をつのらせた（意味不明）
 一見、華やかだがそこはやきもちが渦巻く世界だった（美味しそう？）
 エンヴィ、それはやきもち、君の香り、僕を惑わす…
 （ああ～愛しの君は五平餅団子、その蠱惑的な醤油の香り…）